

TOMOKO

山口県議会議員 高井ともこ 県政レポート



政治姿勢

見つけ出すこと

考え創り出すこと

実行すること

ホームページ



Facebook



ご挨拶

新しい年を迎え、皆さまにとって明るく希望に満ちた一年となることを心よりお祈り申し上げます。山口県議会議員として、県民の皆さまと共に地域の発展に尽力する決意を新たにしております。

昨年は、地域の課題解決に向けた様々な取り組みを行ってまいりましたが、少子高齢化や地域活性化、そして防災対策の重要性を改めて感じる一年でもありました。特に、自然災害のリスクが高まる中で、地域防災の強化は喫緊の課題です。災害に備えた地域の防災力を高めるため、住民の皆さまが主体的に取り組む仕組みづくりを推進し、行政との連携を深める施策に力を注ぎます。

2024年は地域経済の活性化、子育て支援、女性の声を活かした政策が注目された年でした。今年はこれらをさらに発展させ、持続可能な社会を目指し、AIの活用や脱炭素化に向けた取り組みを積極的に進めます。また、山口県の伝統と文化を守りつつ、新たな価値を創造する「革新と調和」の精神で、地域の未来を切り拓いていきます。

誰一人取り残さない社会の実現に向け、皆さまの声に耳を傾け、寄り添いながら具体的な成果を生み出してまいりたいと考えております。

引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Vol.5

January 2025

みなさまの心に寄り添って、県政に届けます！



12月5日 11月定例議会登壇

11月定例議会

11月25日～12月13日に行われた定例議会の一般質問より抜粋したものを掲載しております。詳細につきましては山口県議会のホームページより本会議の議事録をご覧ください。



自民党

Q1. 公共施設の窓口でのキャッシュレス決済の導入について

キャッシュレス決済は、行政機関や公共施設の業務効率化や事務負担軽減、さらに利用者に多様な支払い手段を提供し、窓口での待機時間短縮など、行政サービスの利便性向上に寄与する重要な取り組みです。県では、各種証明書等の電子申請における手数料の決済用アプリ対応を進めていますが、県有施設の窓口での入館料や施設使用料のキャッシュレス化は一部の施設に限られています。このため、「やまぐちワークスタイルシフト」の取り組みの中で、若手職員から窓口でのキャッシュレス化の推進提案があり、現在、導入に向けたワーキンググループを設置し、決済端末導入費用や運用コスト、現金払い希望者への対応などの課題を検討しています。今後、各窓口の利用状況や費用対効果を踏まえ、導入施設や端末選定、実装スケジュールについて具体的に検討し、早期実装を目指して取り組んでいきます。また、市町のキャッシュレス化推進も後押ししており、事業者との連携で決済端末や導入事例紹介セミナーを開催、Y-BASEでの相談対応も行っています。今後は、県と市町で構成するデジタルガバメント構築に向けた連携会議で、市町の導入検討を促進し、情報提供を積極的に行っていきます。県としては、公共施設における業務効率化や県民の利便性向上を図るため、キャッシュレス決済の導入に積極的に取り組んでいきます。

Q2. 未来を見据えた農業振興と脱炭素化への取組について

世界的な気候変動や自然災害の頻発化により、農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。国は「みどりの食料システム戦略」を策定し、農林水産業の生産力向上と環境負荷低減の両立を進めています。本県でも、令和5年策定した「やまぐち農林水産業振興計画」に基づき、実需者のニーズに対応した生産拡大と脱炭素化による温暖化防止対策に取り組んでいます。

実需者のニーズに応じた生産拡大では、安定価格が見込める園芸品目（加工・業務用キャベツなど）の低コスト・省力化技術導入を推進し、葉草や高温耐性水稻品種の試験栽培を継続します。また、新たな品目導入には、市町や関係団体と連携し、現地での産地化に取り組みます。

地球温暖化防止策としては、堆肥散布の拡大や化学農薬・肥料の使用減少を進め、農業の自然循環機能を強化します。ヘンプは大量の二酸化炭素を吸収する作物であり、全国で栽培事例がありますが、県内では種子確保や盗難防止策などの課題があり、国の対応動向を注視しています。

県は、市町や関係団体と協力し、新たな品目の導入や脱炭素化により地域活性化と温暖化防止を進め、未来を見据えた農業振興を推進していきます。

Q3. 宇部港の港湾機能の強化について

宇部港は、化学工業を中心とした臨海工業地帯を支える重要な港湾です。県では、船舶の大型化に対応した港湾整備を進め、港湾コストの低減や効率的な物流ネットワーク構築を目指しています。徳山下松港と共に、国際バルク戦略港湾として石炭やバイオマスの大量輸送により物流コスト削減を図る施設整備が進行中です。航路・泊地浚渫を終え、大型船舶の入港が可能となり、今後は徳山下松港との連携強化が期待されます。さらに、東見初地区の泊地整備や沖の山地区の岸壁改良、芝中地区の荷役機械更新など、施設の機能強化が計画的に進められています。ソフト面では、定期コンテナ航路の維持・拡大や背後企業の競争力強化のため、港湾施設使用料の減免措置や、船会社及び県内企業向けのポートセールスを行っています。

加えて、脱炭素化の潮流を受け、宇部・山陽小野田地域コンビナート企業連携検討会議で脱炭素化の検討が始まり、令和6年3月には宇部港港湾脱炭素化推進協議会が設立されました。協議会ではエネルギー供給拠点港としての実績を活かし、関係企業から様々な提案がされています。今後、脱炭素化に向けた目標や事業を調整し、令和7年度中に港湾脱炭素化推進計画を策定する予定です。県は、企業の動向を的確に捉え、ハード・ソフト両面から地域企業の国際競争力強化や産業振興を進め、関係機関と連携して宇部港の機能強化に取り組んでいきます。

Q4. 次世代モビリティサービスの推進について

人口減少や高齢化が進む中、地域住民や観光客の移動手段を確保し、利便性を向上させるためには、デジタル技術を活用した次世代モビリティサービスの導入が必要です。県では、市町や事業者と連携し、デマンド型交通サービスや自動運転技術の導入、MaaSを活用した効率的な移動手段を進めています。具体的には、AIデマンド交通など、新たなモビリティサービス導入を目指す市町に専門家を派遣し、先進事例に基づく助言や国の補助制度の活用支援を行っています。また、周南市の自動運転EVバスの実証では、2千人以上の地域住民に乗りいただき、運行データと利用者アンケートを収集し、利便性向上に向けた意見を反映しています。さらに、市町や交通事業者向けに、AIデマンド交通や自動運転バスの実証成果に関するセミナーを開催し、全県に拡大できるよう取り組みます。また、令和6年8月には、県内2空港の二次交通情報と航空会社のMaaSを連携し、航空機利用客にデジタルチケット購入やタクシー予約を提供し、効率的な移動環境を整備しました。今後も市町や交通事業者と連携し、利便性の高い持続可能な地域公共交通の確立に向け、次世代モビリティサービスの普及に取り組んでまいります。

Q5. 台湾向けの観光プロモーションの成果と今後の展開について

台湾は、本県のインバウンド市場において、地理的・文化的な親和性が高く、アクセスが良好で訪日リピーターも多いため、重要な市場です。このため、台湾からの誘客拡大を目指し、私は取組を進めています。昨年、台南市と「観光、物産、経済等に関する覚書」を締結し、友好関係を深め、現地の観光・物産関係者をアンバサダーに任命するなど、新たなネットワークを築きました。また、令和6年2月には4年ぶりに台湾とのチャーター便が運航され、さらに「やまぐち和牛燦」の初輸出や、防府市所蔵の台湾画家「陳澄波」の絵画の里帰り展示が実現し、交流が進みました。アンバサダーの働きかけで、下関海響マラソンへの台湾訪問団参加や、台南市の経済団体による企業視察など、人的交流も活発化しています。これらの成果を生かし、今後は戦略的な情報発信や県内周遊の促進により、観光プロモーションを展開します。具体的には、現地の旅行ニーズに精通した観光プロモーターと連携し、私自身によるトップセールスや、旅行会社を招いた視察ツアー、商談会を開催し、観光商品の造成を進めます。また、SNSを活用し、台湾のインフルエンサーによる本県の魅力を発信、さらに旅行予約サイトとの連携で購入意欲を喚起します。令和7年2月のチャーター便運航に合わせ、県内各地を巡る旅行商品を造成し、山口宇部空港と新山口駅を結ぶ乗合タクシーを運行するなど、観光地を効率よく周遊できる体制を整えます。今後も、県議会や市町、関係団体と連携し、台湾との観光交流の拡大に取り組んでいきます。

Q6. 横断歩道上の交通事故防止対策について

令和6年11月末現在の交通事故死者数は前年同期比で20人多い48人で、うち6人が横断歩道上で亡くなり、その半数が信号機のない横断歩道です。県警察は、交通安全教育、広報啓発、交通指導取締りを通じて、横断歩道での歩行者優先を徹底しており、山口県では令和4年7月から「横断歩道ハンドサイン運動」を推進しています。運動の浸透を図るため、各年代への交通安全教育や、毎月5日の運動推進日等にキャンペーン活動を行ってきました。その結果、JAF調査では、信号機のない横断歩道での歩行者横断時の車の一時停止率が令和3年と比べ10ポイント以上増加しました。しかし、JAF調査では停止率が前回から下がり、依然として横断歩道での事故が発生している状況です。県警察は、運転者の安全運転意識向上と歩行者保護を徹底し、歩行者にも自身の安全を守る交通行動を促すことが重要だと考え、取組を強化しています。運転者に対しては、事業所での交通安全教育や運転免許証更新時講習で「横断歩道ハンドサイン運動」の周知を行い、教育内容を充実させます。また、メディアやSNS等で交通安全に資する情報を発信し、地域イベントにも参加して広報活動を進めます。交通指導取締りは引き続き重要で、横断歩行者の多い通学路や生活道路で集中的な取締りを行います。歩行者には、交通ルールの周知とともに「手を上げる」「運転者に顔を向ける」など、横断する意思を伝える行動を促す教育を進め、学校での親子参加型の安全教育を行います。県警察は、これらの取組を強化し、横断歩道上での交通事故防止に努めてまいります。

2024年活動写真館

様々な活動の中から掲載可能なものを取り上げております。
Facebookページ
<https://www.facebook.com/tomoko.takai.77>

防災 フジグラン宇部での防災イベント

フジグラン宇部で開催された「防災Cafe2024『DOする防災!』」は、地域住民の防災意識を高めるための実践的なイベントでした。
2024年9月1日には、地震体験車を使った揺れの体験や、災害時に役立つパネル展示が行われ、来場者は防災に関する知識を深めました。さらに、心臓マッサージやAED操作の体験コーナーも設けられ、実際の災害時に備える重要なスキルを学ぶ機会となりました。
このイベントは、誰でも参加できる形式で、地域全体の防災力を向上させる一助となることを目指していました。



視察 東岐波の夏祭り

東岐波地区の夏祭りは、2024年8月3日に開催されました。
このイベントでは、フラダンスや空手の型などの新しい演目に加わり、東岐波中学校吹奏楽部の演奏や寿会・民生児童委員の仮装、獅子舞などが披露されました。



防災

防災訓練



2024年11月7日、山口県宇部市で「石油コンビナート等総合防災訓練」が実施されました。南海トラフ地震による震度6弱の揺れを想定し、地域の防災力向上を目指した重要な訓練です。住民避難訓練や陸上・海上での防災対応が行われ、最新技術を活用した情報収集や海上での燃料油漏洩対応も実施されました。約200名が参加し、迅速で的確な対応体制が確認され、地域全体の防災意識と能力が一層強化されました。この訓練を通じて、災害時に備える体制が着実に整備され、地域の安全性向上に大きく貢献しています。

防犯

視閲式



2024年11月30日、山口県山口市で「令和6年山口県警察視閲式」が開催されました。この式典は、山口県警察の活動成果を披露し、地域の治安維持への取り組みを広く伝えることを目的としています。式典では、山口県警察音楽隊の演奏や警察官、白バイ隊による部隊行進が行われ、日頃の訓練の成果が示されました。また、事前予約制で警察業務に興味のある方々を対象に施設見学も実施されました。約200名が参加し、地域の防犯意識の向上と警察活動への理解が深まる貴重な機会となりました。

視察 ドローンサッカー

山口県宇部市の「ドローンセトバラ」では、ドローンサッカーのデモンストレーションを通じて、ドローン技術の魅力を広めています。ドローンサッカーは、5対5のチーム戦で行われ、直径40cmまたは20cmのドローンボールを使用する戦略的なスポーツです。ドローンセトバラでは、誰でも楽しめる安全な環境を提供し、基本的な操作方法やルールを学びながら体験できます。地域活性化と技術普及を目指し、さまざまな体験プログラムを開催しています。



発行：高井ともこ事務所

〒755-0153

山口県宇部市床波5丁目10番1号

TEL&FAX 0836-52-7722

mail: t.takai.a.office@gmail.com